工芸

春山文典（はるやまふみのり）

推薦理由

春山文典氏は，東京藝術大学大学院を修了し，日展理事，現代工芸美術家協会常務理事を務めている。アルミニウムを造形的に仕上げる稀（まれ）にみる作家であり，「風」や「宙」をテーマにした連作は，自然との対峙（たいじ）から独自の表現となって，日本現代工芸美術展内閣総理大臣賞，日展文部大臣賞，そして日本芸術院賞を受賞した。また，横浜美術短期大学学長（平成 22 年横浜美術大学に改組）なども歴任し，人望が厚く，日本芸術院会員にふさわしい人物である。

【略歴】

昭和２０年５月９日　長野県生まれ　７４歳

昭和４４年　東京藝術大学美術学部工芸科卒業（同 46 年同大学院美術研究科工芸専門課程鋳金専攻修了）

昭和５１年　第 15 回日本現代工芸美術展初入選（「時（じ）・間（かん）」に対して）

昭和５２年　第 9 回日展初入選（「朝（あさ）の交響盤（こうきょうばん）」に対して）

昭和５８年　第 22 回日本現代工芸美術展審査員（後 14 回）

平成　元年　第 21 回日展審査員（後 7 回）

平成　９年　（社）日展評議員（同 13 年監事，同 19 年評議員，同 23 年理事，現在まで　※同 24 年公益社団法人へ移行）

平成１４年　（社）現代工芸美術家協会常務理事（現在まで　※同 25 年一般社団法人へ移行）

平成１６年　横浜美術短期大学学長（同28年まで　※同22年横浜美術大学に改組）

【賞歴】

昭和５３年　第 17 回日本現代工芸美術展現代工芸賞（「四角柱（しかくちゅう）インスコープ」に対して）

昭和５４年　第 18 回日本現代工芸美術展現代工芸会員賞（「四角柱イン・ドップラー」に対して）

昭和５４年　第 11 回日展特選（「四角柱イン・セクション」に対して）（後 1 回）

昭和５４年　北方領土返還祈念シンボル像デザイン公募最優秀賞

昭和６０年　第 24 回日本現代工芸美術展東京都知事賞（「無限郷（むげんきょう）」に対して）

平成１２年　第 39 回日本現代工芸美術展内閣総理大臣賞（「風（かぜ）の箱（はこ）」に対して）

平成１２年　第 32 回日展文部大臣賞（「風（かぜ）の門（もん）」に対して）

平成２８年　第 72 回日本芸術院賞（「宙（そら）の河（かわ）」に対して）

書

黒田賢一（くろだけんいち）

推薦理由

黒田賢一氏は，19 歳の頃より本格的に書の道を志し，先達（せんだつ）から注目を浴びてきた。更に鋭敏な感性で書の古典の研鑽（けんさん）に励み，筆触の多様性，独特の運筆，簡明直截（ちょくせつ）な線の響き合いによって，漢字仮名の枠を超える新鮮な書の表現に挑戦した。そして大字かなの表現の類型化を危惧した氏は，凛（りん）とした線に当をえた要白（余白）を設定することで斬新で格調高い書の表現を試みた。また人書ともに映える高邁（こうまい）な人物でもある。

【略歴】

昭和２２年１月２７日　兵庫県生まれ　７２歳
昭和４１年　西谷卯木に師事
昭和４４年　改組第 1 回日展初入選（「猫柳（ねこやなぎ）」に対して）
平成　９年　第 29 回日展審査員（後 7 回）
平成１９年　兵庫県書作家協会会長（同 23 年まで，同 24 年顧問，現在まで）
平成２０年　四国大学文学部客員教授（現在まで）
平成２３年　読売書法会常任総務（現在まで，同 30 年常任総務兼最高幹部会議副議長，現在まで）
平成２３年　（社）日展理事（現在まで　※同 24 年公益社団法人へ移行）
平成２９年　日本書芸院理事長（現在まで）

【賞歴】

昭和６１年　第 18 回日展特選（「山里（やまざと）」に対して）（後 1 回）
平成１０年　姫路市芸術文化賞
平成１４年　神戸市文化賞
平成１５年　兵庫県文化賞
平成１５年　大阪府知事表彰（文化芸術功労）
平成１５年　第 35 回日展日展会員賞（「深雪（しんせつ）」に対して）
平成２１年　第 41 回日展内閣総理大臣賞（「静寂（せいじゃく）」に対して）
平成２３年　第 67 回日本芸術院賞（「小倉山（をぐらやま）」に対して）
平成２４年　姫路市芸術文化大賞
平成２９年　神戸新聞平和賞
平成３０年　地域文化功労者文部科学大臣表彰

小説・戯曲

松浦寿輝

推薦理由

優れた作家の常として，松浦寿輝氏も詩から出発した。「鳥の計画」は日本の現代詩に新生面を切り開いた傑作である。その後，「エッフェル塔試論」，浩瀚な「明治の表象空間」などの評論によって文明・文芸批評を展開するとともに，小説「花腐し」で芥川龍之介賞を受賞後，本格的に小説家としての活躍も目覚ましく，長編小説「半島」「川の光」「名誉と恍惚」等の秀作を発表して，その存在は現代日本文学の重要な担い手の一人として輝いている。

【略歴】

昭和２９年３月１８日　東京都生まれ　６５歳
昭和５１年　東京大学教養学部フランス学科卒業（同55年同大学院仏語仏文学専攻修士課程修了）
昭和５６年　パリ第３大学大学院博士課程修了・文学博士
平成　３年　東京大学教養学部助教授（同11年同大学院総合文化研究科超域文化科学専攻・教養学部超域文化科学科教授，同21年同大学院総合文化研究科超域文化科学専攻長，同22年まで（専攻長），同24年退官（教授），同26年名誉教授）
平成１５年　高見順賞選考委員（同20年まで，同30年から現在まで）
平成１７年　毎日出版文化賞選考委員（同26年まで）
平成２０年　読売文学賞選考委員（現在まで）
平成２７年　毎日芸術賞選考委員（現在まで）

【賞歴】

昭和６３年　第18回高見順賞（「冬の本」に対して）
平成　７年　第5回吉田秀和賞（「エッフェル塔試論」に対して）
平成　８年　第9回三島由紀夫賞（「折口信夫論」に対して）
平成１２年　第50回芸術選奨文部大臣賞（「知の庭園－19世紀パリの空間装置」に対して）
平成１２年　第123回芥川龍之介賞（「花腐し」に対して）
平成１７年　第 56 回読売文学賞小説賞（「半島」に対して）
平成２１年　第 17 回萩原朔太郎賞（「吃水都市」に対して）
平成２４年　紫綬褒章
平成２７年　第 56 回毎日芸術賞特別賞（「明治の表象空間」に対して）
平成２９年　第 53 回谷崎潤一郎賞（「名誉と恍惚」に対して）
平成２９年　第 27 回 Bunkamura ドゥマゴ文学賞（「名誉と恍惚」に対して）
令和　元年　第 75 回日本芸術院賞（「小説，詩，評論など多くの領域において，高度の水準に達した作品を創造し続けた業績」に対して）

詩歌

荒川洋治

（本名　荒川　洋治）

推薦理由

荒川洋治氏は，20 代の初めからひたすらに詩を書き続け，詩作の間に，また溢れるように詩論を，エッセイを発表し続けてきた。その詩編は現代詩にしばしば見られる独善や晦渋に陥ることなく読む者の想像力を開放し，エッセイもまた時代相に鋭く切りこみ，人の心に活気を与える。幾つかの詩・文学の賞の選考に貢献しながらも，氏はいわば日本詩壇の一匹狼として馳せ続けてきた。ただその狼は，金子兜太風に言えば，いつも首のあたりに蛍の青い灯を一つとまらせていたのである。

【略歴】

昭和２４年４月１８日　福井県生まれ　７０歳
昭和４７年　早稲田大学第一文学部卒業
昭和５７年　H氏賞選考委員（同 58 年まで）
平成　７年　中原中也賞選考委員（現在まで）
平成１１年　(財)高見順文学振興会評議員（同17年理事，現在まで　※同25年公益財団法人へ移行）
平成１２年　高見順賞選考委員（同 17 年まで，同 22 年から同 27 年まで）
平成１４年　(財)日本近代文学館評議員（同20年常務理事，同23年理事，現在まで　※同23年公益財団法人へ移行）
平成１５年　愛知淑徳大学創造表現学部教授（同 29 年まで）
平成２０年　太宰治賞選考委員（現在まで）
平成２９年　川端康成文学賞選考委員（同 30 年まで）

【賞歴】

昭和５１年　第 26 回H氏賞（「水駅」に対して）
平成１０年　第 28 回高見順賞（「渡世」に対して）
平成１２年　第 51 回読売文学賞詩歌俳句賞（詩集「空中の茱萸」に対して）
平成１６年　第 20 回講談社エッセイ賞（「忘れられる過去」に対して）
平成１７年　第 13 回萩原朔太郎賞（「心理」に対して）
平成１８年　第 5 回小林秀雄賞（「文芸時評という感想」に対して）
平成２８年　第 70 回毎日出版文化賞書評賞（「過去をもつ人」に対して）
平成２９年　第 8 回鮎川信夫賞（「北山十八間戸」に対して）
令和　元年　第 75 回恩賜賞・日本芸術院賞（「処女詩集『水駅』以来，優れた詩集を持続的に刊行するとともに，充実した詩論を展開した業績」に対して）

評論・翻訳

亀山郁夫

推薦理由

21 世紀において，明治時代に研究されていたドストエフスキーの翻訳が新しい文体でもって一段と深化された。亀山郁夫氏の新訳の「カラマーゾフの兄弟」（全５巻）は，文体の深化において注目され，読者の反響も大きく，この種の翻訳は「罪と罰」「悪霊」「白痴」においても質の高い成果が得られ，新しいドストエフスキーの世界を開くことになった。

【略歴】

昭和２４年２月１０日　栃木県生まれ　７０歳

昭和４７年　東京外国語大学外国語学部ロシア語学科卒業（同 49 年同大学院外国語学研究科修士課程修了）

昭和５２年　東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学

昭和５２年　日本学術振興会特別研究員（同 53 年まで）

昭和５７年　天理大学助教授（同 62 年まで）

昭和６２年　同志社大学助教授（平成 2 年まで）

平成　２年　東京外国語大学助教授（同 5 年教授，同 17 年附属図書館館長・学長特別補佐，同 19 年学長，同 25 年まで，同 25 年名誉教授）

平成２０年　朝日賞選考委員（同 29 年まで）

平成２５年　名古屋外国語大学学長（現在まで）

平成２８年　第 26 回 Bunkamura ドゥマゴ文学賞選考委員

平成２９年　大伴家持文学賞選考委員（現在まで）

令和　元年　第 10 回表象文化論学会賞選考委員

【賞歴】

平成１０年　第7回木村彰一賞（「破滅のマヤコフスキー」に対して）

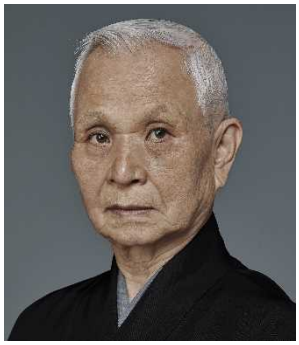
平成１５年　第29回大佛次郎賞（「磔のロシアースターリンと芸術家たち」に対して）

平成１９年　第61回毎日出版文化賞特別賞（ドストエフスキー著「カラマーゾフの兄弟（全5巻，翻訳）」に対して）

平成２０年　プーシキン賞

平成２５年　第64回読売文学賞研究・翻訳賞（「謎とき『悪霊』」に対して）

能楽



亀井忠雄（かめい ただお）

推薦理由

亀井忠雄氏は，能楽囃子（はやし）方・亀井俊雄師の次男として，幼少より，父及び川崎九淵師始め数々の名人上手の指導を受け，華麗にして規矩（きく）の正しさ，柔軟にして自在な境地を切り拓（ひら）き，独自の芸風を確立，平成30年度，恩賜賞・日本芸術院賞を受賞した。今日，能楽囃子方の頂点に立つ第一人者として，数々の名舞台をリードし，重要無形文化財（各個認定）保持者として，後進の育成に力を注（そそ）ぐなど，人格，識見，芸格ともに十分に有している。

【略歴】

昭和１６年１２月１日　東京都生まれ　７８歳
昭和２１年　父・亀井俊雄に師事
昭和２４年　「熊野（ゆや）ロンギ」で初舞台
昭和２５年　川崎九淵に師事
昭和３０年　吉見嘉樹に師事
昭和３９年　日本大学芸術学部演劇学科卒業
平成　３年　(社)能楽協会常務理事（同9年まで　※同22年公益社団法人へ移行）
平成　９年　(社)日本能楽会理事（同17年まで，同17年から同19年まで常務理事　※同27年一般社団法人へ移行）
平成１０年　葛野流宗家預り
平成２４年　葛野流家元（同28年まで）

【主な海外公演歴】

昭和４１年　アメリカ公演
昭和５１年　世阿弥座公演（フランス，デンマーク，スウェーデン，東ドイツ）
昭和５７年　世阿弥座公演（西ドイツ，オーストリア，スイス，フィンランド，ブルガリア）
平成　２年　喜多流香港公演
平成　５年　世阿弥座公演（ドイツ，アイルランド）
平成２１年　観世流イタリア公演
平成２８年　ニューヨーク公演

【賞歴】

平成　６年　観世寿夫記念法政大学能楽賞（「大鼓（おおつづみ）の演奏」に対して）
平成１４年　重要無形文化財（各個認定）保持者
平成１６年　紫綬褒章
平成１９年　新宿区名誉区民顕彰
平成２４年　旭日小綬章
令和　元年　第75回恩賜賞・日本芸術院賞（「能楽の最高秘曲『姨捨（おばすて）』を始めとする様々な曲趣を奏する卓越した技法による舞台成果」に対して）

歌舞伎

坂東　玉三郎
（本名　守田　伸一）

推薦理由

　坂東玉三郎氏は，歌舞伎女形を代表する一人であり，その活躍は歌舞伎の舞台のみならず，他の舞台芸術や映像との交流にも及び，国内外で高い評価を得ている。また近年は，後進の育成にも熱心に取り組み，自身が当たり役としている役を若手の歌舞伎俳優に伝承することに尽力している。

【略歴】

昭和２５年４月２５日　東京都生まれ　６９歳
昭和３１年　十四代目守田勘弥の部屋子となる
昭和３２年　「寺子屋」小太郎にて坂東喜の字を名乗り初舞台
平成　４年　(社)伝統歌舞伎保存会理事（現在まで　※同25年一般社団法人に移行）
平成２４年　(公社)日本俳優協会常任理事（現在まで）

【賞歴】

昭和４６年　第21回芸術選奨新人賞
昭和４６年　第8回ゴールデン・アロー賞演劇賞（後1回）
昭和６０年　都民文化栄誉章
平成　３年　フランス芸術文化勲章シュバリエ章
平成　５年　ジャン・コクトー国際賞
平成　８年　ダンススクリーン96グランプリ
平成　９年　モンブラン・デ・ラ・キュルチュール賞
平成１０年　第39回毎日芸術賞
平成１０年　第5回読売演劇大賞最優秀男優賞
平成２１年　第57回菊池寛賞
平成２４年　重要無形文化財（各個認定）保持者
平成２５年　フランス芸術文化勲章コマンドゥール章
平成２６年　紫綬褒章
平成２８年　第72回恩賜賞・日本芸術院賞（「歌舞伎女形を代表する活躍及び演技の成果」に対して）
平成３０年　第39回松尾芸能賞大賞
令和　元年　第10回岩谷時子賞
令和　元年　高松宮殿下記念世界文化賞
令和　元年　文化功労者

【参考資料】

(1) 概要

日本芸術院は，日本芸術院令第３条に基づき，芸術上の功績顕著な芸術家の中から補充すべき会員を毎年会員による選挙を行い決定しています。

日本芸術院は，その前身である帝国美術院が森鷗外を院長として大正８年に創設されて以来，現在まで約１００年の歴史を持ち，日本芸術院会員への選考は，美術，文芸，音楽，演劇，舞踊等の芸術各分野の芸術家から栄誉あることとして広く認識されています。

日本芸術院会員は，一般職の国家公務員（非常勤）で，年金額は２５０万円，任期は終身です。

(2) 選考方法

日本芸術院会員候補者の推薦は，毎年度，日本芸術院会員により行われ，全会員で組織する会員候補者選考委員会において選考します。その候補者について，各部において会員による投票を経て，総会の承認を得ることにより決定します。

(3) 選考経過

令和元年８月１６日から８月３０日までの間，日本芸術院の会員に対し候補者の推薦を求めたところ，第一部（美術）１０名，第二部（文芸）１１名，第三部（音楽・演劇・舞踊）２名，合計２３名の推薦がありました。

令和元年１０月１８日に開催した全会員で組織する会員候補者選考委員会において，１８名の被推薦者を会員候補者選考委員会が推薦する会員候補者としました。

当該候補者１８名について，令和元年１０月１８日から１０月２５日にかけて，各部において投票を行い，令和元年１０月３０日開催の部長会議において開票した結果，第一部２名，第二部３名，第三部２名が部会員の過半数票を得て会員候補者に内定しました。

内定者について，書面による会員総会の承認を経て，令和元年１１月１３日に会員候補者として決定しました。

(4) 上申

上記会員候補者７名について，　文部科学大臣に上申しました。

(5) 会員数（現員は令和元年１１月１３日現在）

日本芸術院会員（定員１２０名）は，第一部（美術：定員５６名）は現員４２名に２名加わり４４名，第二部（文芸：定員３７名）は現員２９名に３名加わり３２名，第三部（音楽・演劇・舞踊：定員２７名）は現員２４名に２名加わり２６名となり，合計で現員９５名に７名加わり１０２名となります。